

平成26年千葉市教育委員会会議
第9回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成26年千葉市教育委員会会議第9回定例会会議録

日時 平成26年9月24日(水)
 午前10時00分開会
 午後12時00分閉会
 場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 和田 麻理
 委 員 篠原ともえ
 委 員 内山 英夫
 委 員 明石 要一
 教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 田辺 裕雄 養護教育センター所長 山本 雅司
 教 育 総 務 部 長 米満 実 生涯学習振興課長 増岡 忠
 学 校 教 育 部 長 磯野 和美 中央図書館長 松尾 修一
 生涯学習部 長 朝生 智明 加曾利貝塚博物館長 飛田 正美
 総 務 課 長 石野 隆史 生涯学習振興課科学教育推進担当課長 西村 安正
 企 画 課 長 大崎 賢一 中央図書館情報資料課長 元好 正史
 学 校 施 設 課 長 真田 賢一 学事課長補佐 布施 善幸
 学 事 課 長 小川 彰 スポーツ振興課担当課長補佐 木村 重雄
 教 職 員 課 長 伊藤 剛 文化振興課主査 荻谷三温子
 指 導 課 長 山本 幸人 指導課主任指導主事 中嶋のり子
 保 健 体 育 課 長 津野 政彦 生涯学習振興課主査補 三橋 勉
 教育センター所長 遠藤 悟

書 記 総務課長補佐 山本 春樹 総務課主任主事 佐久間暁子
 総務課総務係長 渡邊 実 総務課主事 荒井 博行
 総務課主任主事 杉山 隆

- 1 開会
和田委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立
過半数委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名
和田委員長より内山委員を指名
- 4 会期の決定
平成26年9月24日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認
平成26年第4回定例会会議録及び第5回定例会会議録を全委員異議なく承認
- 7 非公開審議の決定
議案第36号を非公開審議とする旨決定
- 8 議事の概要
 - (1) 報告事項
報告事項(1) 千葉県通学路交通安全プログラムの策定について
小川学事課長より報告があった。
報告事項(2) 平成26年度千葉県農山村留学推進事業（長野県実施）について
山本指導課長より報告があった。
報告事項(3) 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について
山本指導課長より報告があった。
報告事項(4) 千葉県科学フェスタ2014について
西村生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
報告事項(5) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とした主な事業の実施結果について
増岡生涯学習振興課長及び元好中央図書館情報資料課長より報告があった。
報告事項(6) 夏休み期間中の科学教育推進事業について
西村生涯学習振興課科学教育推進担当課長より報告があった。
 - (2) 臨時代理報告
報告第1号 県費負担教職員の人事について
伊藤教職員課長より報告があった。

(3) 議決事項

議案第36号 平成26年度千葉市教育功労者表彰について

総務課長より説明があった後、審議。全委員異議なく、原案どおり可決した。

(4) 発言の要旨

報告事項(1) 千葉市通学路交通安全プログラムの策定について

和田委員長 学事課長、報告をお願いします。

小川学事課長 報告事項(1)「千葉市通学路交通安全プログラムの策定について」、報告します。資料とあわせて参考資料にプログラムそのものの案を載せてございますので、ご参照ください。

まず、目的ですが、通学路の安全確保に向けた取り組みを実施するため、関係機関の連携体制を組織して、合同点検や点検結果に基づく対策の実施、それから対策効果の検証、検証結果による対策の改善・充実等の安全対策を効果的かつ効率的に行うことです。

策定に当たっての経過については、平成24年4月以降、全国で登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次いで発生したことを受け、文部科学省、国土交通省及び警察庁の3省庁が連携して、緊急合同点検を行いました。これに基づき、平成25年度、26年度も引き続き合同点検を実施してきたところです。3年間の合同点検の実施状況については、資料にありますので、ご参照いただきたいと思います。

また、平成25年12月、文部科学省、国土交通省、警察庁から通学路の交通安全の確保に向けた取り組みの基本方針を策定するように通知が出され、これまでの間、関係機関と連携し、プログラム策定を進めてきたところです。

プログラムの内容については、資料に書きましたけれども、目的については先ほど申し上げたとおりです。

推進機構の設置については、お手元の参考資料に推進組織を示しています。学校関係者、道路管理者、そして交通管理者の3者を中心に組織を作り、学事課を初めとする所管課が事務局となっています。

取り組み方針ですが、本年度から合同点検については、市内の学校を3グループに分けて、全ての学校において3年に1回のペースで計画的に実施していくこととしました。

合同点検により明らかになった対策必要箇所については、担当機関ごとに関係者との連絡を図りながら対策を実施し、学校への

アンケート調査等について、対策の効果の把握に努めて、さらなる対策内容の改善・充実を図っていきたいと考えています。

対策箇所の一覧表、あるいは対策箇所の図の公表についてはこのプログラムそのものと、対策された地図や、どのような対策が行われたかということについて今後、市のホームページなどで公表していきたいと思います。

本プログラムは現在、最終的な確認を関係課等で実施しており、文言等、若干修正があるかもしれませんが、策定後は学事課のホームページに掲載していきます。なお、対策の一覧あるいは対策の内容が示された地図等については、建設局のホームページに掲載する予定になっています。

明石委員 聞きたいのですが、課長の説明では、この合同点検は3年に1回実施すると言われていていますよね。なぜ3年に1回実施するのかということと、3年に1回実施した場合の報告はどこに上がってくるのでしょうか。教育委員会会議に上がってくるのか来ないのか、その辺をお願いします。

小川学事課長 平成23年度までの合同点検のやり方というのは、現地で合同点検という形ではなくて、学校から学事課に上がってきた内容によって、警察、あるいは道路管理者に要望を上げるという形になっていて、学校からすると、要望がどのような形でどのようなようになったかわからなかったのですが、今回からは三者がその現場に行き、どのように危ないのか説明をし、対策を協議する形になっていまして、そこが大きく違っています。

今、明石委員のご指摘のように、3年に1度となっていますが、今までは上がってきたものの中から実現の可能性の高いものを学事課で精査し、点検を実施しておりまして、余り計画的ではなかったところがあります。今回、小学校については3年に1回は必ず見て回ります。今まで要望を出していなかった学校もあり、点検が行われていなかったという学校も実はあります。そうではなく、全部の学校についてきちんと3年のスパンで実施していくことが一番計画的だという結論を、道路管理者と警察と相談する中で出しています。

2年間はやらなくてもいいのかとなってしまいますが、緊急的に求められる場合は、今までと同じように学事課に要望を上げて実施する形で進めていきたいと思います。

内容の報告については、学事課で集約して、それが公表結果に

反映されるようになっていきます。

明石委員 こういう形をやると非常に良いことだと思います。ぜひお願いします。

意見ですけれども、各学校単位で、防災や通学路や放課後、交通安全教育について三者面談をやってほしいと思います。神戸市で事件がありましたけれども、例えば地震に遭ったときにどこに逃げ込むかを、保護者と先生が知っておいてほしいのです。進路指導の三者面談は多いのですが、安全教育の三者面談は余りできていないと思うのです。もしやっているところがあれば、ぜひそれでモデルを作って、113校の学区で普及させてほしいと思います。今回の神戸の事件で、文科省もすごく後手後手で非常に慌てていますが、安全教育の三者面談をやっておくことが必要だと思います。質問ですが、もし何か千葉市でやっているところがありましたら、そのような実践があるかないかも含めて説明してほしいです。

小川学事課長 今、明石委員から話があったような、子どもと保護者と学校の三者が一緒になってというのは、機会としては今まで無かったと思います。ただ保護者、あるいはセーフティウォッチャーの皆さんからもかなりご意見をいただいています、学校はそれを集約した上で改善の要望を上げています。

また、安全マップあるいはヒヤリ・ハットマップ、いろいろな名前がありますが、交通安全、防犯について、子どもたちの視点で見た安全マップをどの学校でも作っています。学事課でもそれを集約しているのですが、子どもの声も集めたものが学校の要望として出てきます。それらをもとに道路管理者と警察と学校の三者で協議します。学校は子どもや保護者の意見を集めた形で要望を出している、一応間接的な形で、子どもや保護者、あるいは地域の方々の要望が伝わるような形にしています。

明石委員 お願いしたいのですが、本気で三者面談をやらないといけないと思います。全国の地域子ども会は安全マップ、ヒヤリマップを実施しているのです。地震があったので、今、新潟が一番進んでいます、福島や東北の方は非常に感度が良いのです。最近首都圏でも、いつ何が起こるかわからない、地震の巣窟と言いますか、そのような地域がありますよね。

そのような意味では、大きなこの合同点検は大事なのですが、もう少しソフトな面で、子どもたちがどこに逃げ込んでいるか、

教師も親も多分知らないと思うのです。学校の場合は通学路についてわかるけれども、知らないところもあると思います。そこがやはり一番危険なので、千葉市として、そういう視野で早急に実施してほしいのです。千葉市教育委員会の安全教育に関する一覧がないのでわかりませんが、その中で三者面談をどのように位置づけるかということは、やはり欲しいです。

もう一つは、1泊2日で体育館に泊まるなどのプログラムがある防災キャンプ推進事業があり、文科省は補助金を出して推進しているわけです。避難したときに体育館などで宿泊する練習をしておかないと、非常にストレスがたまってきます。そういう全体の危機管理というか安全教育の仕組みを作った中の三者面談をお願いしたいのです。ソフト面において点検をしてもらえばと思います。これも、早くやったほうが良いと思うのです。

和田委員長 例えば、交通安全や防災だけに特化した三者面談の機会を改めて作るのはなかなか難しいかと思うのですが、既に保護者面談や、子どもも交えての三者面談を行っている学校がほとんどと思うのです。その中に組み込んで、通学路の確認や災害時の避難の仕方を確認する項目を必ず入れるように指示することは可能だと思うのですが、その点はいかがでしょうか。

小川学事課長 お話のとおりだと思います。面談の中で、子どもの生徒指導の問題や、あるいは学習の問題、そのような問題が話し合われることが多いかと思いますが、やはりそのようなことの他に安全の問題なども出てくる場合もあります。また、先程も申し上げましたが、セーフティウォッチャーから実際に活動している中で出てくる問題も多くありますし、それ以外の町内の方から出てくる場合もあります。

それらに対して、学校で、きちんとアンテナを高くして情報を集める体制にしなければいけないと思います。そのような意味では、例えば育成委員会の会合あるいは保護者面談も大変重要です。そのような形で学校にも、多くの声を集約した上で要望を上げるように、指導していきたいと思っています。

和田委員長 全体会で言われる場合と、1対2で言われることとは、受ける印象が全く違うと思いますので、やはり個別に担任との確認をしっかりとやっていくように、ぜひこれから検討してほしいと思います。

篠原委員 今話し合っているのは通学路の交通安全のプログラムのこと

なので、災害対策のところまで広がってしまうと、とても大変になってしまうと思うのですけれども、このプログラムの中に、春の交通安全運動のときの自転車の乗り方や、子どもたちと一緒にの実施訓練というのでしょうか、そのような活動は含まれているのでしょうか。

小川学事課長 先ほど申し上げた経緯の中で、緊急的に24年度に行われた合同点検が始まりでして、主にどのように点検して改善していくのか、その改善の成果をどのように表していくかということで考えています。それぞれ、学校の中で、その安全教育の中で、自転車の乗り方や地域と一緒に防災訓練などをどのようにやっていくのかという話題になると思います。

篠原委員 これとは別個にそういうことはまた考えていかなければいけないということですね。わかりました。

内山委員 一つ確認したいのですけれども、校長以下管理職は、やはり地域の通学路全体をちゃんと歩いて、そして確認して、頭に入れて、何かあったときぱっと判断できるような体制が必要だと思うのです。特に新任の校長先生を含めて、そのような指導をされているのかどうか。

それと三者の関係は非常に大切だと思うのです。子どもたちと一緒にやるというのも、子どもにとっても良いし、子どもから見て、先生と保護者あるいは地域の方と一緒にやっていることは、非常に良いと思うのです。その点でひとつ指導をよろしく願います。

和田委員長 今まで確実に全校に行き渡っていなかったという点検が今後、このような形で3年に1度は確実に行うということですので、ますます子どもたちにとって安全な通学路が保障されていくことを願っています。よろしく願います。

報告事項(2) 平成26年度千葉県農山村留学推進事業（長野県実施）について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

山本指導課長 報告事項(2)「平成26年度千葉県農山村留学推進事業（長野県実施）について」、報告します。

8月22日から25日まで、他人を思いやる心や社会性、自主性を育成することなどを目的に、19校1,068人が17市町村19地区に分かれてさまざまな体験活動をしてきました。実施した学校等については、資料の実施地域、学校の表をご覧ください

い。

主な活動内容については、各実施地域の特徴を生かし、登山やハイキング、川遊び、カヌー体験などの自然体験や、和太鼓体験、座禅体験などの文化体験、地元小学校との交流会や、そば打ち体験、みそづくりなどの食に関する活動などを行ってきました。さらに、ホームステイを通して、ホストファミリーとの温かい心の触れ合いも体験してきました。地域によっては天候不順で予定されていた活動が一部できなかつたところもありますが、受け入れ地域の方々の尽力、引率職員の臨機応変な対応により、工夫を凝らした体験活動が行われ、計画以上に地域の人々とのつながりを図ることができたと思っています。

事業の成果について、豊かな自然と地域の人々との心温まる交流は、子どもたちにとって貴重な経験となったこと、保護者から離れて生活することで、自分のことは自分ですするという主体性を伸ばす機会になったことなどが挙げられています。その他として、資料に参考ですが長野県の農山村留学全体の実施地図を掲載しています。

最後に、長野県の各新聞でも大きく取り上げられましたので、記事のコピーを掲載してありますので、ご覧ください。長野県での多くの体験が子どもの学校生活での成長につながっていくことを願っています。

明石委員 資料中、地域の新聞「市民タイムス」に、千葉市の子どもたちが「信濃の国」を歌ったという記事がありました。これは、学校間交流だと思ふのですが、非常に良いことだと思ふのです。そのときに、千葉市の子どもたちが、「千葉市こどもの歌」を長野県の子どもに紹介して歌うという指導は行く前にしてなかつたのでしょうか。

言いたいのは、交流というのは一期一会なので、行く以上は準備をしようと思ふのです。そのため、自分の学校の良いところはここよとか、あなたの学校の良いところはここよと、そういうことをお互いキャッチボールするから交流が深まるのです。

もう一つ、千葉市はホームステイを実施していて、非常に良いことだと思ふます。それで、ホームステイへ行く場合に、そこにいるおじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんのことが少しわかつて、何かお土産を手づくりで持っていくなど、結構良いことをやっているのです、クオリティを高めるような指導はどの

ようにされているのか少し聞きたいと思いました。

山本指導課長 「信濃の国」は長野県で非常に定着しているようですが、長野県も、このような機会がないとなかなか歌わなくなっているというようなことも聞いています。それぞれ学校間交流の中で、必ず校歌等は歌うようになっています。ただ、向こうでは太鼓を見せてくれたりしますが、千葉市からも学校独自にいろいろなものを用意して学校の紹介をするように心がけているところです。

千葉市の歌は少し難しいので、「千葉市こどもの歌」について、こちらから絶対歌ってくださいという指導はしていませんが、各学校で歌うということも、全ての学校ではありませんが、あるように聞いています。

また、ホームステイ先へのお土産ですが、農山村留学が終わった後、ホームステイ先の方がCDに写真などを焼いてくれて、それを持たせてくれる、送ってくれることがよくあります。その後、千葉市からもご両親が、交流をいただいたお礼の手紙を出すなどの交流はありますが、最初から何かお土産を用意することは、指導していません。各学校でそれぞれ何か考えて、自分の紹介カードなど、そのようなものを用意するということは、報告はされています。

明石委員 指導課は強制できないと思うのですが、私の経験で、日本の高校生が、タイの高校生と交流するイベントがあります。向こうは、タイの踊りをきれいにやってくれるのです。日本の子どもたちは何もありません。何を表現したらいいかわからないのです。

だから、交流というのは、自分のことも紹介するけれども、自分が育ったルーツと言いますか、学校や地域のことをディスカッションして、例えば八木節を踊るとか、東京音頭でも何でも良いですよ、何かそういうものを交えて交流することを、小学校時代に経験していると、中学校、高校に行って海外に行ったとき、「そうか、こういう形でみんなディスカッションして交流すればいい」と考えると思います。これが、私は6年後の2020年の東京オリンピックやパラリンピックに対する国際交流の基礎になると思いますので、せっかく千葉市は6年生でものすごくお金をかけ、先生の苦勞もありながら農山村留学推進事業をやっていますから、もう少し交流の意味を考えて欲しいと思います。自然体で良いのです。せっかく人との交流を

するのだから、その辺についても、先生の担当者会議があったときに、もう少しアドバイスしていただきたいと思っています。

内山委員 このように、地元の新聞に取り上げてもらうのは非常にありがたいことですね。子どもたちも見ていると思うのですが、今、明石委員が言ったように、やはり自分たちで何か表現するという積極的な姿勢が子どもたちの指導のあり方として大切だと思います。

例えば盆踊りも、千葉に関係するものが幾つかありますよね。そういうのを踊るなどは、簡単なことなので実施すればよいのではないかと思いますぜひ、明石委員が言った意見を検討してほしいと思います。よろしくをお願いします。

和田委員長 この農山村留学は、初任者研修も兼ねているかと思うのですが、その初任者からの意見の集約は既に行われているのでしょうか。

遠藤教育センター所長 初任者研修として全初任者が行っており、そのアンケートは、今週中に集約する予定です。私も視察の中で初任者に話を聞くと、やはり子どもがいて、机上の研修ではなくて子どもがいる実際の研修なので、非常に良い成果があり、これからの教育活動に生かせるとのことです。特に中学校の教員が、小学校6年生を見る機会はなかなかありませんので、「ああ、小学校6年生はこういう時期で、4月になったらうちに来るんだ」ということを実感して、その後の教育活動に当たれるという声も聞いています。

和田委員長 たしか去年は、中学校の教員は準備が大変で、しかも行くのも大変で、自分たちが直接関わらない小学生と関わるのが、自分たちにとってどうなのかという疑問を持っているという意見があったように思いました。今年それがどうなのかと気になりましたので、また結果が出たらぜひお知らせいただきたいと思いません。

報告事項(3) 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

和田委員長 指導課長、報告をお願いします。

山本指導課長 報告事項(3)「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について」、報告します。

本調査の目的については、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、各学校における児童生徒への教育指導の充実と改善等に資することにあります。

今年度の本調査は4月22日(火)、市内小学校113校、中学校56校の小学6年生及び中学3年生の全児童生徒を対象に

行われました。

教科に関する調査として、国語、算数・数学の2教科において、主として「知識」に関するA問題、主として「活用」に関するB問題が実施されました。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査、また各学校における指導方法に関する取り組みや、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する学校質問紙調査をあわせて実施しました。

調査結果については文部科学省から8月25日に公開され、各学校には翌日に結果が送付されています。

本市の調査結果ですが、教科に関する調査については、資料の表にありますように、小学6年及び中学3年ともに、全国、千葉県、大都市の平均正答率をいずれの教科も上回る位置にあり、昨年に引き続き、おおむね良好な状況にあるものと考えます。また、本市の児童生徒の特徴として、国語A問題が全国的に見て高い結果ではありますが、国語、算数・数学のB問題の正答率が全国や千葉県、大都市と比較して高い傾向が昨年同様に見られます。

次に質問紙調査の結果に見られる特徴ですが、まず、児童生徒への質問調査で、小学校では、「1日当たり2時間以上勉強する」と回答した児童の割合は、全国より5ポイント高く、「国語の勉強が好き」と回答した児童の割合も5ポイント高くなっています。その反面、「家で、学校の復習をしている」と回答した児童の割合は、全国より5.6ポイント低くなっています。

中学校では、「学校が休みの日に1日当たり3時間以上勉強する」と回答した生徒の割合が、全国より5.8ポイント高くなっています。また、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」と回答した生徒の割合は、全国より5.0ポイント低くなっています。その反面、「家で、学校の宿題をしている」割合は全国より6ポイント低くなっているところです。

次に、学校質問紙調査からは、小学校では「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行っている」割合、中学校では「朝読書を毎日行っている」割合が非常に高くなっています。

今後の公表のあり方については現在検討中ですが、結果の概要を示し、その後に詳細な分析を行った上で、学校における学習指導改善に資するデータと、今後の学習指導の方向性や改善のポイントを示すことで、各学校の今後の指導改善に効果的な内容の公

表としたいと考えています。

指導課としても、計画訪問等の機会を捉え、分析結果を活用した指導・助言を行うことで、「わかる授業」を一層推進し、児童生徒一人一人の「確かな学力」の育成を図っていきたいと考えています。

明石委員 国語と算数・数学のA問題、B問題で見ると、国語は全国も千葉県も、B問題の平均正答率が低いのです。算数・数学も低いですが、例えば千葉市で言いますと、算数・数学はA問題68.3%で、B問題で61.6%であり、7ポイントぐらいで縮まってきたのです。それで、文科省が、本当はこのようなことを研究しなければいけないのですが、千葉市独自で国語部会、算数・数学部会で、A問題とB問題の平均正答率の差が20ポイント、10ポイントぐらいありますが、それは問題がまずいのか検討してほしいと思います。B問題は活用や応用、論理のことについて、書かせることに力点を置いているのだと思うのですが、それがこの6年間正答率が伸びていないのは、問題がいけないのか。学校としては指導はしているのだけれども、B問題が伸ばせない、伸びない。そのようなことを、指導課と教育センターがチームをつくって検討するのか、また検討してきたのかというのが、1点目の質問です。

2つ目は、先ほど課長が言ったように、このデータの公表は非常に慎重にやってほしいと思います。ただし、私が欲しいデータは、千葉市内で準要保護を受けている児童生徒の割合が20%以上の学校が小学校で5校あり、中学校で6校あるのです。この前、教育委員会事務局でデータを出してもらったのですけれども、その学校のデータとそれ以外のデータを比較して、A問題、B問題で同じような差があるのか無いのか。

準要保護の小学校5校と中学校6校の偏差値の標準偏差と、その他にそれほど差がなければ、学校の力や地域の力の差は出ていないということがわかるのです。

だから、今後地域が大変だと言われている学校における学力の度数分布を調べていただいて、どこに原因があるのか内部で検討して欲しいと思います。その原因がわかれば、前回申しましたように、4月の人事異動でその学校には重点的に力を持った先生方と、地域の人との協力を得て高めていくという方法にしないといけないと思っています。

今年は沖縄が伸びました。去年は高知が伸びたのですよ。それはA問題が伸びたのです。B問題はどこも伸びていないのですよ。そういうことがありますから、突貫工事でやればA問題は伸びるけれども、B問題は伸びていないのです。その辺りを教育センターの優秀な先生方に集まって分析して欲しいというのが、意見の1つです。

2つ目は、今日、委員の皆さんには配ったのですが、「『いい子どもが育つ』都道府県ランキング」というのがあるのです。これはある民間会社が、学力・学習状況調査に質問コーナーが100問くらいあるのですが、その中から早寝早起きであるとか、テレビの視聴時間が短い、やる気はあるか、道徳心が高い、ボランティア活動に参加したことがあるなど、46問だけを抜粋して、それを全部集計した都道府県別のデータです。それを千葉市バージョンで作ってほしいです。それで、全国の平均と比べて、千葉市はいい子どもも育てているのですよ、学力テストも高いけれども、いい子どもも育てているというデータが出ればと思っています。

その2つが出れば、千葉市はこれだけ知的レベルも高いし、いい子どもが育っていますよということで、ぜひ住んでいただきたいと思っています。そういうことを、やはり教育からエビデンスを集めて、全国発信できるようなことがあると思うのです。そういうことを、教育センターでプロジェクトチームを作って検討してほしいと思っています。去年もそのことについて、私は言ったはずなのですけれども。

山本指導課長 A問題とB問題ですけれども、A問題は暗記や知識で答えられる、B問題は活用に関するもので、全国同様な傾向があります。そして、毎年同じ問題をやっていて、それが上がったか下がったかであれば少しわかるのですが、毎年問題が変わりますので、その時によって、A問題が七十何点で、B問題が四十何点ということがあります。これは全国学力・学習状況調査の欠点と言えは欠点なのです。今年の問題が難しければ、下がります。

ちなみに、平成21年度の小学校の問題の平均正答率で言いますと、国語のA問題は69.9点、B問題が50.4点。算数が、A問題が78.7点でB問題が54.8点で、同じような傾向があります。24年度は国語のA問題が62.7点に下がり、B問題も49.4点に下がりました。算数の場合は、B問題は58.4点で4点上がっており、そのときの問題の作成で大きく変わっ

てきてしまうのかと思っています。

本市においては、これまで、A問題が全国学力よりもある程度良い、B問題は全国の平均正答率よりも高い傾向が続いております。算数のB問題など、全国でもトップレベルの成績ですので、知識のA問題も向上するよう、知識、技能の定着を図っていかねばいけないのかと思っています。

準要保護や要保護等については、慎重に行わなければいけないことだと思えます。本市としては、子どもたち、そして学校の特徴を見きわめて、個に応じたきめ細かな指導に努めるとともに、学力向上サポート事業等を活用して、「確かな学力」育成に向けての取り組みを支援していきたいと考えています。

最後に、「『いい子どもが育つ』都道府県ランキング」は、私も見ましたが、これはランキングを作るのが非常に難しいということ、それから現在は、詳細な分析することが先なのかと思っています。そして、本市独自に実施しています千葉市学力状況調査の結果について、意識調査を含め、分析して、「わかる授業」の推進に努めていきたいと思っています。

明石委員 意見ですが、分析をする場合は、問題意識を持たないと、分析の結果は使えないと思うのです。だから何のための分析かということを書いてもらわないと、こちらはわかりません。例えば、先程言った一つの手法として、準要保護の学校一校一校ではなく、小学校5校と中学校6校をまとめて、その学校以外と比べてみて欲しいのです。要するに簡単に言ったら、保護者の方々は「しんどい学校」と言っているのですよ。

大阪大学の志水さんがやっている研究では、大阪でいわゆる「しんどい学校」と言われるところに、教育委員会が集中的に人事配置して変わったというケースがあるのです。だから、教員は、口では言いませんが、そこに行くのを嫌がっています。そのような現実問題があることを解決するのが教育委員会の役割だと思っているのです。

そういう意味で、そのような視点の分析がないか。まだ他にあれば、例えばクラスで、非常に頑張っている学校が、なぜそこまでできているかということの分析も含めてお願いしたいのです。ただし、データはオープンにせず内部で慎重に扱ってほしいのです。そういう意味では教育センターが一番良いと思っています。

もう一点は、これは各学校に任せたら忙しくて分析できませんので、だめなのです。それはやはり教育委員会でまとめて、データをつくって、名前を消して提案していくと良いと思います。そういう方法をしていかないと、分析しても多分、学校に任せたらもうほとんど日の目見ずで、お聞きすると大体、校長室の中に全部金庫あけて、その中にデータが入っているんです。非常に貴重なデータなんです。それと、課長が言うように、千葉市独自の学習状況調査もあわせて分析していただけると良いと思っています。

千葉市の場合は、理科、社会科もあり、多分、千葉市の場合、理科の平均正答率がもっと高いと私は思っているのですが、そういうのも含めてお願いしたいと思います。

和田委員長 今、分析ということで、何か観点を持ってという話が出ましたけれども、それについて、もし思うことがあればお願いします。

山本指導課長 今、詳細な分析もあわせて行っているのですが、それぞれの教科、A・B問題ごとに、このようなことが課題なので、こういうことに取り組みましょうという内容で作成中です。そして、各学校で千葉市のデータと合わせてみて、自分の学校がどうなのかと比べて、自分の学校の分析に役立つ、そういう資料を考えています。

例えば、正答率の分布図については、山のようになるのですが、ある学校では下のほうが多いとか、別の学校は真ん中がないけれども、上のほうと下のほうが多くなっているなど、分析することで、各学校で使って役立つ、千葉市と比べて役立つようなものを、検討しているところですので、よろしくお願いします。

明石委員 その結果はいつごろ上がってきますか。

山本指導課長 10月末ぐらいまで待っていただければと思います。

篠原委員 質問ですが、質問紙調査の結果の中で、小学校の「1日当たり2時間以上勉強する」というのは、これは休日の1日のということなんでしょうか。それとも、平日の中で2時間以上勉強するということなんでしょうか。何か中学校と少し違っているので、どうなのかなと思いました。

あと、もう一つ、「家で、学校の復習をしている」という「家で」というのは、全国より5.6ポイントも低いのですが、「家で」の考え方が何かよくわからないのです。学校以外と考えると、ポイントは高くなるのかなど、いろいろと行ってしまった

のですけれども、その辺はいかがでしょうか。どう考えたらいい
ですか。

山本指導課長 この「1日当たり」と書いてあるのは、学校など関係なくとい
うことです。「家で」とは、まさに家でということ。確かに
子どもたちも家ではなく、6年生は子どもルームへ行っていませ
んから、確かに子どもたちも家ではなく、違うところへ行って勉
強するということもあるかもしれません。

ただ、これについては、始まったときからずっとこの質問であ
り、文科省の考えだと思います。市としては、小学校3年、5年、
中学2年で実施している千葉市学力状況調査の意識調査をデー
タ活用していきたいと考えています。

和田委員長 千葉市独自でやる際には少し文言も考えることができると思
いますので、「家で」というニュアンスも、子どもにとっては塾
で勉強しているのは家ではないから、これには該当しないと思っ
ている子どもも多いと思いますので、そのあたりを精査してほしい
と思います。

先ほど、B問題がどうしても得点が低いという話も出ましたけ
れども、千葉市の子どもたちは、400字詰め原稿用紙2、3枚
の文章を書くことが難しいと思わないという子どもが多いよう
ですので、書くことが得意な子どもは当然B問題も得点に表れる
と思います。B問題の得点を上げるために書く練習をするのでは
なく、書く練習が行われているからB問題が高いというのが当然
だと思うのですけれども、引き続き、この書くことや知識を深め
ることについては、学校での授業の中で取り組みをお願いしたい
と思います。

明石委員 資料の質問紙調査の結果の中に、学校に対する調査の結果に
見られる特徴とありますが、これはできたら、教育だよりでも
っと強調してくれると良いと思います。これは、本当にびっくり
しているのですよ。小学校で「図書館を利用した授業」とい
うのは、全国平均より約24ポイント高いことは、千葉市の非
常に良いセールスポイントなのです。中学校でも、「朝読書を
毎日行っている」というのが全国より26.5ポイント高いで
しょう。課長が説明するように、B問題が、全国、千葉県、大
都市、全部より高いのだから、こういうことはやはり、教育だ
よりでぜひ紹介してくれると良いと思います。良いことは、褒
めていかないといけないと思います。

和田委員長 この「週に1回程度以上、図書館を利用した」の項目で「図書館」というのは学校図書室のことを言っているのですよね。

山本指導課長 これは学校図書館と公立の図書館を含めています。それで、本市唯一の科学館や、加曽利貝塚、そのような施設が非常に多くて、科学館については97%の小学校が行っており、本市は恵まれていると考えています。あと、加曽利貝塚での校外学習も多くなっています。学校図書館も、図書館指導員が配置されており、図書館を活用する回数が多いと考えています。

和田委員長 先ほどの農山村留学もそうですけれども、千葉市内に住んでいると千葉市のことしかわかりませんから、それが当然だと思っている子どもたち、保護者が多いと思うのです。実は他の市町村ではやっていなくて、千葉市しかやっていない素晴らしいことがたくさんありますので、やはりそのあたりは胸を張ってPRしていきたいと思います。私たちもちろん、あちらこちらで宣伝していますので、恥ずかしがらずにPRしていきたいと思います。

報告事項(4) 千葉市科学フェスタ2014について

和田委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

西村科学教育推進担当課長 報告事項(4)「千葉市科学フェスタ2014について」、報告します。

期日は10月11日(土)から12日(日)にかけての行事です。科学フェスタの趣旨ですが、千葉市科学都市戦略事業方針に基づいて、市民が日常生活の中で科学技術を身近に感じることができる総合的な科学の祭典で、市民が気軽に科学技術に触れ合い、ライフスタイルに科学が浸透する機会ということで考えています。

主催は千葉市、市教育委員会、科学館となっています。科学フェスタは本年度で第4回目になります。科学フェスタ自体は、メインイベントと呼ばれているこの2日間と、それ以外に通年で各地で行っているサテライトイベントと2つありますが、今回紹介するのはメインイベントになります。

時間については10時から16時、場所は「きぼーる」全体を使うような形になると思います。

内容について、開幕式は、11日にあります。今年度は、プラネタリウムのリニューアルを紹介することが、例年と違う部分かと思っています。主なイベント内容については、昨年度に準じるものですけれども、講演会のテーマで、「iPS細胞ってなんだろう

う？」ということで、いわゆる社会的にも新しい内容についてのものを取り入れるようにしています。さらに、理科の自由研究で科学館賞を選定しているのですが、子どもたちから、その発表が、あります。また、新しいものとして、3Dプリンタで作った骨や臓器のモデル、そのようなものも展示しようと考えています。

2日目の閉幕式では、最後に、「ちばサイエンスコミュニケーションングランプリ表彰」ということで、来館者の方に投票していただいた中で一番優れた発表をした団体を表彰するものです。

今年度の特徴は、大きく2つあります。1つは、4年になりますので、質的な向上を目指しています。さらに出展団体の交流を促すために、サイエンスコミュニケーションに力を入れているのが特徴です。フェイスブック等の活用や、科学フェスタ当日に各団体のブースにメッセージボードなるものを用意したり、交流会を催すなど、そのような、いろいろな科学に関する団体のサイエンスコミュニケーションを浸透させようと思っています。

今年度のテーマは、「これからの私たち～未来とつながる～」ということで、先ほど申し上げましたけれども、社会的に話題となっている、新しい技術等について触れたいと思っています。

その他に、両日とも科学館の常設展示、プラネタリウム等については無料開放としています。それから、科学フェスタの公式ガイドブックも作成しています。

内山委員 昨年も感心しましたが、高校生が非常に素晴らしい発表をしていましたね。今回も民間等含めて、出展団体の募集をやっていますけれども、民間団体への広がりはどうでしょうか。まだ、数が少ないのかなという気がしますけれども、その辺いかがでしょうか。

西村科学教育推進担当課長 今年度については、若干調整中の部分がありますけれども、昨年度は、団体数で言うと45団体ですが、「きぼーる」全体のスペースが限定されていますので、出展団体数としては大きく変わっていません。ただ、出展団体を少し昨年度と入れかえています。やはり新しい団体に入っていただくということで、少し交替している部分があります。

明石委員 非常に良いことだと思います。要望なのですが、この科学フェスタと、市の総合展覧会が「きぼーる」でありましたよね。市の総合展覧会というのは、教育長賞や科学館賞がありますよね。これ、担当課は多分指導課じゃないですか。違いますか。

それで、この科学フェスタは生涯学習部なのです。で、未来の科学者育成プログラムもこれ、生涯学習部だと思うのです。

それで、この2つをドッキングして、週間や月間で、千葉市科学フェスタをずっとやりましょうとか、10月は実施しますという形で銘打ってくれると、実施する方ではなくて、受け取る市民の方々がわかりやすいと思います。

実は、埼玉県は11月の最初の1週間で「彩の国教育週間」と言っているのです。すごいでしょ。11月1日は「彩の国教育の日」に制定しているのですよ。茨城県は11月を「いばらき教育の月」とし、1か月間で県民の方々に、生涯学習をしましょうという。290万人の県民で、300万人が参加するそうです。

そこで、千葉市でも指導課と生涯学習振興課がタイアップして、1週間なり2週間で、科学フェスタ週間などとして、一斉に広報で打って出る。そうすると、千葉市の良さが出るかと思えます。これを見たら、教育長賞や、科学館賞は、当日表彰しますよね。これと同時に、もう一度展示すると良いと思います。私も行きましたけれども、非常に感銘しました。あそこまでできているのだから、何で千葉市からノーベル賞が出ないかとか思ったりしました。とにかくそういう1週間なり10日間なり月間を、千葉市独自でできないかと思えます。すぐできそうなので、教育委員会内部でも課を超えて実施してほしいという要望です。

西村科学教育推進担当課長 今、明石委員からお話があったことについては、既に少しは取り組んでいるところがあります。配付しました科学フェスタのチラシの中には当日のメインイベント以外のプログラム内容を月間にあたる事業として紹介しています。今後もそのように進めていきたいと思っています。

和田委員長 このチラシはどの範囲に配っているのですか。

西村科学教育推進担当課長 千葉市内の全小中高や、公民館、それからいろいろな公共施設、各課で独自に配っているところもあります。

和田委員長 子どもたちにはそれぞれ1部ずつ手元に行っているということですね。

西村科学教育推進担当課長 はい。全部で10万部くらいです。

和田委員長 その割にはなかなか来てくれないですね。

篠原委員 少し余談なのですがけれども、一昨年か昨年か、市川市内の県立高校の先生が、科学部の子どもたちを連れてやって来たのです。どこからか情報を得て、科学フェスタにいらしていたのだと思う

のですけれども、そのような形で何かもう少し広い範囲で、チラシを置いておけるスペースがあると、もっと見に来てくださると思います。よろしくお願いします

和田委員長 チラシもそうだと思うのですけれども、いつも申し上げていますが、例えば学校の先生から配るときに一言あったり、口コミ、友達を連れてくるなど、それが非常に大きいと思うのです。どうしても、科学館に近いと毎年通う子どもも多いと思うのですが、交通機関に乗って行かなくてはならないとなると、保護者が一緒ではないと、小学生となるとなかなか行かないと思います。例えば、保護者会の際に一言言ってもらうとか、そのような地道な努力が今まで科学に興味のなかった子どもたちを引っ張ってくることに繋がると思いますので、ぜひアナログな地道な努力を先生達にもお願いできればと思います。

報告事項(5) 生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とした主な事業の実施結果について

和田委員長 生涯学習振興課長及び中央図書館情報資料課長、順に報告をお願いします。

増岡生涯学習振興課長 報告事項(5)「生涯学習・社会教育施設等における夏季休業中の子どもたちを対象とした主な事業の実施結果について」、報告します。

まず、夏休みということで、子どもたちにとって大きな可能性を秘めた期間と考えています。長い休みということで、有意義な体験をしたり、自由研究のような課題や、それから学習の補充にじっくりと取り組んだりすることも大事なことでと考えています。そこで公民館、図書館、博物館等では子どもに向けた事業を展開するというので、夏休みに事業が集中する形になります。

まず、公民館の事業として、一つ「おとまり IN 星久喜」ということで、青少年育成委員会の協力を得て、毎年行っている事業であり、宿泊による異学年交流を通じて自主性や強調性を育むのが目的です。対象は小学校3年生から6年生で、24人の定員に対して40人ほどの応募がありました。写真の図は炊事をしているところです。意見として、カレーを作ったこと等が楽しかったという意見がありました。

次は、環境教育として、「夏休み子ども環境教室～風呂敷の包み方～」という行事を黒砂公民館で行いました。これは環境保全課に協力を得ましたが、風呂敷を使うことでレジ袋を使わない生

活というか、究極のエコバッグを作り、エコに対する意識を植えつけることを目的としています。対象は小学校1年から6年生と、保護者です。20人の定員に対して14人ということで、応募が少なかったようです。

次に、科学都市推進関連講座として、誉田公民館で「誉田公民館夏休みこども教室～発泡入浴剤を作ろう～」という行事を行いました。これは、泡の出るといった現象に興味を持たせることで、科学に対する意識を身近にするのが目的です。小学校1年生から6年生を対象として、20人の定員に対し24人の参加、少し多かったのですが参加することができました。

次に、南部児童文化センターでは、卓球を通して運動の楽しさ、ゲームのルールを学ぶことを目的とした「子ども卓球教室」を実施し、こちら小学校の高学年を対象として、10人の定員に対して17人の参加がありました。

以上、公民館、南部児童文化センター関係なのですが、アンケートをとった結果、「特によかった」が74%、「よかった」が24%です。おおむね好評という結果でした。

それから、生涯学習センターですが、まず講座として、「知りたい！声優のしごと」ということで、プロの声優から説明を受けて、そういった体験、それから生の職業人と触れ合うことによって、声優のプロ意識というものを知りながら、職業に対する意識を植えつけるものです。こちらは高学年が対象でした。

次に「宇宙の不思議～宇宙の旅を体験しよう～」ということで、国立天文台の協力を得て行った事業です。天体の誕生、地球、太陽の不思議を解明するもので、科学に対する意識を植えつけるというのが動機づけとなっています。高学年を対象として、50人の定員に対して53人の応募がありました。当日の参加者は少し減って、44人の参加でした。

次に、「千葉県ものしり検定」ということで、こちらはNPO法人郷土ちばに学び親しむ会にご協力を得たところです。千葉市の地理、歴史、文化、産業などを学んで、その検定を通して効果を見たところです。小学校3年生から中学校3年生までを対象として、50人の定員で47人の応募があったのですが、実際に参加したのは27人と少し減ってしまいました。

それから、「千葉公園を歩いて世界に1つの本をつくろう！」ということで、これは生涯学習のボランティアの協力を得て実施

しました。公園の散歩、散策、それから葉っぱや木の実で自分だけのオリジナル本をつくっていくもので、自然との触れ合いといったものを行いました。こちらは結構人気がありまして、24人定員に対して76人ほどの応募がありました。

全体として、生涯学習センターのアンケート結果も、「特によかった」が78%で、残りも21%が「よい」ということで、ほぼ100%近く好評を博しました。

次に、南部青少年センターですが、こちらは「英語で遊ぼう」ということで、ヒアリング、それから英語に慣れることを中心に、歌やゲーム等で英語を楽しく学んでいくものです。小学生を対象として、定員ぴったりの20人の応募がありました。ただ、当日は16人の出席で、4人欠席がありました。

次ですが、「サマーチャレンジ工作」ということで、低学年と高学年に分けて行い、低学年が20人の定員に対して、少し多い22人の応募がありました。それから高学年が20人の定員に対して、少し少ない16人でしたが、全員参加しました。今年度は虫眼鏡を使って、カメラなどを作るなど、そのような不思議を科学することを行い、NPOちばサイエンスの会のご協力を得ました。ちなみに、昨年度はICラジオを作りました。

次に、「美文字『硬筆』で色紙飾りづくり」ということで、皆さんのお手元にもお配りしましたが、昨年度のインターンシップで来た学生が企画をさせていただいたところです。美文字の学習や色紙飾りの楽しさを学ぶということで、対象は小学校3年から6年生まででした。定員が20人になっていますが、参加が少なく6人という形になってしまいました。

南部青少年センターでのアンケート結果も、講座は、「特によかった」という意見が66.7%で、「よかった」という意見も32%あり、おおむね好評でした。

次に、科学館について、「捜査シミュレーション体験」ということで、科学技術館の協力を得て実施しました。捜査シミュレーションを通じて科学捜査を知るもので、少しおもしろおかしく、捜査という手法をとって小学生に興味を持たせるものです。小学生と親子を対象として7,507組の参加がありました。

次に、「『かがく探検隊』みんなで科学の世界を探検しよう!」についてですが、身近な科学のものづくりや実験を通して体験してもらい、夏休みの自由研究のテーマとなるような講座を実施し

たものです。こちらは、ちばサイエンスの会、算数・数学を楽しむ会、ニルス理科実験クラブの協力を得て実施しました。こちらは、親子も参加して、632人ほどの参加がありました。

次に、「火星ローバーを作ろう」ということで、火星ローバーの模型を作りながらローバーの仕組みを知り、科学に対する興味を持たせるものです。小学生以上を対象として、25人の定員に対して32人の参加があり、多かったのですが、皆さん参加していただきました。こちらは、ちばサイエンスの会の協力を得て実施しました。

それから、「WRO J a p a n 千葉県科学館大会(小学生予選)」というので、WRO J a p a n 向けのロボットの組み立てやプログラミングを行う講座です。WROというのはワールド・ロボット・オリンピックのことで、ロボットをつくり、最終的には世界大会につながるものです。2004年にまず13か国から始まり、現在は参加国、地域が39か国に増えています。ロボットを作って、競わせるという大会で、科学館も予選会場となっています。今年度も予選の国内の決勝が9月21日、それから、国際大会が11月21日から23日に行われます。ちなみに、WROの2013年の大会では、日本チームがベスト16に7チーム入り、県立千葉中学校の科学部も7位に入りました。

以上、科学館の事業についても、81%が「特によかった」、約18%も「よかった」というアンケート結果です。

次に、加曽利貝塚博物館ですけれども、「夏休み！加曽利貝塚縄文ひろば楽しい縄文たいけん」ということで、火起こし、アンギン編み、昔の布の編み方、吹き矢、縄文衣の試着、アクセサリづくりを通して、郷土史といった歴史に興味を持たせるものです。参加対象は小学生親子、一般も対象です。こちらは1,407人の参加がありました。

また、「小学生土器づくりの会」ということで、縄文の土器を作るというもので、小学校5、6年生を対象に行いました。20人の応募に対し、11人の参加があったところです。こちらは土器づくり同好会の協力を得て行ったものです。

加曽利貝塚については、「特によかった」が90%で、残り10%も「よかった」ということで、こちらは否定的なアンケート結果は一つもありませんでした。

次に、郷土博物館の事業として、「鎧づくり体験講座」という

ことで、厚紙を使って鎧を作るものであり、鎧の仕組みを学びながら歴史や郷土への関心を持つというのが目的です。小学校高学年から中学生までを対象として、60人の定員に対し62人の応募がありました。

また、「夏休み小・中学生郷土史講座」ということで、黒曜石で石器や弓矢を作ったりするなどの縄文時代の内容や、中世については、女性の内着などの試着体験を行いながら、郷土史や文化の理解を広げていくものです。小学校高学年から中学生を対象として、60人の定員に対し62人の応募がありました。

埋蔵文化財調査センターの事業として、「夏休みまいぶん古代体験教室」ということで、センターの職員によって行われたものです。勾玉づくり、組みひも、火起こしなどの体験を通じて古代人の知恵を知っていくというものです。こちらは小学校の全学年を対象としましたが、低学年については保護者の引率が必要となっています。49人の応募に対し、保護者を含めて197人の参加があったところです。郷土博物館、それから埋蔵文化センターについても、おおむね好評を博しています。

元好情報資料課長 図書館では夏休みにさまざまなイベントを実施しています。普段からもいろいろなイベントをやっていますが、特に夏休みに限った今回の体験として、中央図書館での「親子図書館たんけんツアー」と地区図書館などで「子ども一日図書館員」ということで実施しました。

写真は、中央図書館入口のメインの展示コーナーです。ちょうどこのときに、「旅を楽しむ」というテーマで、海外渡航が自由化されて50周年ということで、企画展示をやっていました。その説明から入って、次に移動図書館へ移動し、中も、運転席から何まで全て見られるという形で実施しました。コメントの中で、建物に2階も貫くような大きな、今50万冊が入っている自動出納書庫があるのですが、そちらのほうがとても楽しかったというコメントをいただきました。

次に、みやこ図書館で行っている「一日図書館員」ということで、窓口で本の貸し出しや返却、利用者と接するという体験から、バックヤードで本の修理や整理と、そのようなものを体験して、普段入れないところや経験できないことができて非常に楽しかったというご意見をいただいています。

こちらでも非常に好評で、各催しとも、特に中央図書館では3回

実施したのですけれども、1回につき20人ということで60人の定員だったのですが、157人という応募をいただき、少し定員を超えて76人参加していただいております。

続いて、「夏のおはなし会」ということで、普段もおはなし会を実施し、特におはなし会は、普段やっていないような、ちょっとした工夫を凝らしたおはなし会を実施しています。まずは「親子おはなし会」ですけれども、写真は中央図書館で実施している「親子おはなし会」で、「おはなしの部屋」というところで、職員がおはなししているものですが、その下に「高校生が語るおはなし会」というのがあります。こちらも普段はほとんど実施していませんけれども、聖心高等学校と植草学園附属高等学校の生徒の協力を得て実施したもので、非常に好評でした。30人の定員で3回実施したのですけれども、できるだけ入って頂きたいということで、156人参加しました。

続いて、「夏休み体験教室」ということで、中央図書館にある視覚障害者向けのブースで点字の仕組みから作成まで、点字で書いた絵のようなものをはがきにして持ち帰って使っていただく体験を実施し、参加者が33人でした。

次は、みやこ図書館で実施しました、国蝶のオオムラサキの体験をしていただいたものです。その次の写真は説明をしているところです。

次が、緑図書館で実施した「オリジナル豆本づくり」ということで、実施している風景です。

また緑図書館では、「おおむかしのアクセサリをつくろう」ということで、勾玉づくりの体験を実施しました。

続いて、「科学あそび・工作」ということで、花見川図書館では「科学あそびの部屋」として、音の振動ということで、わかりづらんですけれども音がすると砂が振動して模様を描く様子を見ていただいた上で、音を伝える仕組みを説明して、最後に豆電話を作りました。

また、若葉図書館では、動物のお面などを簡単に紙で作るような体験をしました。ちょっと簡単過ぎたという意見もあったのですが、大変好評でした。

続いて、花見川図書館で「夏の子ども映画会」を実施し、非常にたくさんの方に参加していただきました。映画会については、定員30人のところ、子どもルームからの参加があり、そこだけ

で50人を超えるような参加があつて、1回だったのが急遽2回やるようにして、全体で98人の参加となりました。内容としては、短編のアニメを中心としたものをたくさん実施したということで、「いろいろなものが見られて良かった」というような感想がありました。

稲毛図書館でも「赤ずきん」や「白雪姫」、「親指姫」、「ジャックと豆の木」、短編のものをいろいろと上映して大変好評でした。

明石委員 非常によくやってくれていると思います。それで質問なのですけれども、資料中にアンケート結果がありまして、この公民館から図書館までの中で、少し計算したのですけれども、大ざっぱに5,000人くらい参加していますが、子どもは5,000人で押さえて良いのでしょうか。やはり、そこに全体の数字を出してほしいのです。5,000人ならば、大ざっぱですが千葉市の小中学生が5万か7万だったかと思うのですが。

大崎企画課長 7万5,000人です。

明石委員 7万5,000人の中で大ざっぱに計算したのに5,000人ですよ。夏休みのときにこれだけたくさん実施しているのだけれども、1割も行っていないのですよね。それは良いのです。この5年間でこういう仕事をしてくると、今1割いっていないけれども、数値目標で、5か年計画で1割持っていく、15%持っていくなど、そういうのを出してくれると良いと思います。せっかく非常に内容の良いことやっているんだけど、多くの方が参加していないのはなぜか。それが1つ。この中で数が出てきていません。

もう一つは、今住んでいるところの項目で、例えば生涯学習センターで言いますと、中央区140人、稲毛区101人とありますが、これを区の児童生徒数に合わせた数値を出してほしいのです。要するに絶対数だけではなくて、相対的な数字を出して欲しいのと、どの区に住んでいる子どもがたくさん行っているかわかりません。

例えば、南部青少年センターは中央区の子どもは行っているとか、図書館では意外と美浜区が行っていないとか。その理由はなぜかとか。科学館は美浜区はたくさん行っているのですよね。だから、そういう区ごとの子どもたちの移動は何が要因かという分析をしてもらおうと、次の手が打てるというのがあります。

同じようなことで、資料中に去年も千葉市の夏休みの行事に参加したかという質問がありますが、去年参加していない人というのが、公民館で言いますと1, 235人いるのですよ。これもさきほどから考えているけれども、リピーターはちょっと計算できないですが、今年新規で来た方は1, 235人もいます。

言いたいのは、リピーターが何%いて、新規が何%いたという数字を出さないといけないと思います。私は、良いことをやっていると思いますが、この事業評価が良いか悪いか判断できないのです。図書館も468人が新規で来ている。これは非常にうれしいことですよ。だから広報が良かったから新規が来たのか、何が理由かわかりませんが、言いたいのは、せっかく良いデータを出してもらっていますが、それを次に使うような形で整理していただくと、私たちも意見を言いやすいです。

和田委員長 数字が出ていても、パーセンテージとしてわからないと、どの程度なのか、どうしてもわかりにくいというのがあります。ただ、やはり、それぞれの講座の定員の問題があると思うので、なかなかこれ以上どうやって増やしていくかということも難しいかと思うのですが、工夫ですとか、何かあれば説明をお願いします。

増岡生涯学習振興課長 まず、今年の参加者ですが、小・中・高校生がおおむね4, 100人で、残り900人が保護者で、全体で5, 000人となると思います。

また、アンケートについてですけれども、確かに話のとおりでして、そのような観点も踏まえて分析したいと思います。

あと、リピーターについてですが、例えば加曽利貝塚ですと逆にリピーターが多くて、アンケートをなかなか書いてもらえず、それが反映できない部分があって、リピーター率が減っているように出てしまうところがありまして、そういったものも少し工夫を考えて、データの収集等を行って参ります。最後に、分析についても、今後につながるような分析をしていきたいと思います。

明石委員 そうすると、4, 000人ならば、千葉市の小中学生の大きっぱに6%くらいですかね。そうすると、3年かけて10%にするとか。公民館なんて132事業実施してしまして、図書館も36事業やっているでしょう。委員長が言うように定員の問題もありますけれども、何かもう少し、余りその質を下げてもいけませんが、6%しか提供を受けないということで良いのだろうかと思

います。

和田委員長 それぞれの事業の定員が少ないということも、きめ細かなことはできると思いますが、もっと大勢でできるようなことも同時に考えていく必要もあるのかと思います。

増岡生涯学習振興課長 先ほど、保護者以外の参加者が、4, 100人とお答えいただきましたが、これはアンケートの数字でございまして、参加者としては概ね28, 000人です。ご報告が遅れて申し訳ございません。

和田委員長 加曽利貝塚の事業なのですけれども、「楽しい縄文たいけん」参加者数が1, 407人ということで、とてもたくさん参加してくれたと思うのですけれども、これは昨年と比べてどうなのでしょう。

飛田加曽利貝塚博物館長 昨年のデータ、手元にないのですが、このところ毎年微増していると聞いています。これ自体はボランティアに主導的に行っていたのでありますけれども、今年のような大変暑い中でも、野外で実施していることが多くあり、天候が悪くて二、三日中止をしたということもありますけれども、人数がそれでもこれほど保っているというのは、一日の人数的には増加していると考えています。今後もこのように続いていければ良いなと思っています。

和田委員長 わかりました。ありがとうございます。

昨年と同じ講座や同じようなものがあつた場合も、昨年比なども一緒に記載していただけるとわかりやすいと思いました。

内山委員 私は黒砂公民館のすぐそばに住んでいるのですけれども、たまたま夜回りの関係で、「あ、こんなことをやっているんだな」というのがわかるのです。そういう関心があるか、あるいはある機会にたまたま目に触れて知るという意味では、なかなか一般の人たちがこういうものを行っているというのを知る機会が少ないのではないかなという気がするのです。関心を持っている人は当然ホームページを見たり、聞きに来たりして調べると思うのですけれども。一般の人はそういう何か企画がないと、なかなか参加する気持ちも含めて難しいのではないかなという気がします。そのPRの方法として何か考えがありますか。

増岡生涯学習振興課長 資料中の、「今回の行事をどこで知ったか」という項目につながると思うのですけれども、周知の方向性としては定まったものがなく、その施設ごとに違っている状態が本当に良いのかどう

かというのがあります。例えば公民館は、チラシを見ていただいた方が約1,800人なのですから、インターネットが1人ということで、対象者が知る方法という問題以上に、科学館では、インターネットが一番主力な周知方法で248人というのがありますので、それを考えると公民館も、周知方法も考えたほうが良いのかと思うところです。あと、意外と口コミというか、友達、家族から聞いたというところも多いので、こちらも大切にできればと考えています。

和田委員長 内山委員の言うとおりで、科学館はインターネットで入手したというのが非常にわかりやすく、他の施設では市政だよりやチラシ、口コミが多いというのもとてもわかりやすいので、私たちも、どうしてもすぐにホームページに載せるというように考えがちなのですから、口コミやアナログの部分もおろそかにしてはいけないなと思います。多分これからもアナログ的な口コミというのは大事なのだらうと思いますので、忘れないようにしたいと思います。

篠原委員 毎年この「おとまり IN 星久喜」が定番になっていて、とても魅力的な行事だと思いながら見ていました。他のところでも、東京ガスや環境保全課など、いろいろなところがいろいろなことに参加していますが、いつも場所が同じような感じがするのですけれども、それは、公民館同士で交流して、違う場所で実施するという事はないのでしょうか。

例えば、どちらかというとも中央区に固まっているいろいろなイベントが多いのですよね。けれども、それを若葉区や緑区など、なかなか千葉市の中央部に出て来られないような子どもたちにも参加させてあげたいという気持ちがありましたので、そのような交流はあるのでしょうか。

増岡生涯学習振興課長 まず、中核公民館で地区公民館を集めて会議を行い、それから中核公民館長の会議を定期的に行っていますので、そのようなところで情報交換をしながら、良いものは共有できるのかと思っています。その辺も、実際今やっているものとの兼ね合いもあつたり、課題もあると思いますので、このような意見があったということで、中核公民館も少し検討ができるかどうか、話をしたいと思っています。

篠原委員 それこそ、「おとまり IN 星久喜」は皆さんが参加し、それでまた育成委員会の方たちも協力して下さって実施してい

ることだと思えるのですけれども、泊まって何かをするというのは、子どもにとってとても楽しいのですよね。農山村留学もそうですけれども、例えば動物公園で夜お泊まりをするなど、なかなか難しいとは思いますが、いろいろなところで宿泊する機会を設けてあげればと思います。もう私が言っただけの話なのですから、そんなことを考えてほしいです。

和田委員長 公民館レベルでは、地域からのかなりのお手伝いがないとなかなかできないので、難しいのかと思うのですが、例えば動物公園という例が出ましたけれども、夜の動物園のイベントはよくありますね。でもそれは、夜の動物園の観察のようなことはやっています、それとは別に、お泊まりということですね。例えばという例ですが、

公民館主催事業として、宿泊というのはどうでしょうか。

増岡生涯学習振興課長 それぞれの公民館の事情もありますので、今実施している事業との兼ね合いや情報の共有化を図って、そこでどのような話になっていくかだと思います。例えば、今回のような育成委員会の協力を得られたり、そのようなものもありますので、こういった意見があったことは、中核公民館長会議を通して伝えて、お泊まりに限らず、やはり良いものがあれば共有して、ほかでも真似するという姿勢は大切だと考えています。

明石委員 ぜひお願いしたいのは、この夏休み40日間で一番体験格差が出るのですよ。そうすると、生涯学習も学校教育も40日間の空白にどうやって体験を提供するかという課題があります。いわゆるミッションの見直しと言っているのですけれども、従来の生涯学習の発想だけではだめなので、学校教育部と生涯学習部がタイアップして欲しいと思います。家庭と地域に全部任されるので、この40日間にもものすごく体験格差が生じるのです。それで、今日資料を見たら参加者の割合が千葉市全体の子どもの6%でしょう。税金で、たった6%しか提供できないのか。あとはみんな家庭と地域にお任せしているわけでしょう。

そうすると、もう一度教育委員会としては、本当にこの3年間で6%を思いっきり10%くらいに上げて欲しいと思います。それで、10年計画でどうするかという長期ビジョンを持たないといけないと思います。多分、現場は公民館でもどこでも一生懸命頑張っているのですよ。そういう全体の見通しがないと、特にこの夏休み40日間をどうするか、やはり千葉市だけでなく、本

気で考えるべきだと思うのです。ぜひその辺、両部が話し合い、情報提供や場所を提供するなど。そうすると、千葉市内の大学との包括協定を結んで、千葉大学、敬愛大学、神田外語大学など、そうした人材をたくさん出してもらって、定員を増やしていく。その辺ももう少し考えて、包括協定のありようも含めて検討してほしいと思っています。

内山委員 今思ったのですけれども、公民館がもっと地域の人たちに身近になれば良いと思います。公民館にチラシが100枚くらい音楽から買い物、いろいろなものが並べてあるのです。その中に興味があるものがあり、「こんなことやるんだ。じゃあ行こうか」というような気持ちになるのですけれども、もっと身近になれば、公民館は情報源の一つになると思うのです。

それとやはり、学校の先生方が子どもたちに、夏休みについて、もう少し地域のいろいろな動きや、あるいは催し物について話をすると良いと思います。そうすればまたもっと関心を持って、「あ、こんなものがあるから行こうか」と、友達同士の相談などで広がると思います。もう少し学校がその立場で、子どもたちの夏休みの過ごし方の一つとして、地域のいろいろな催し物に参加しませんかというような呼びかけをすれば、また違ってくるのではないかと思います。

和田委員長 チラシも1つの事業に対して1枚だったりするので、ばらばらと情報が手元に来る感じが非常にします。例えば子供に対して教育委員会で実施している事業と、子ども未来局でやる事業と、これも子どもに届く経路が別になってしまうので、非常にわかりにくいのです。だから、例えば今月は小学生向けにやっていることが、千葉市全体として子どもたちに簡単に手が届くようになっているとわかりやすいとも思うのですけれども、そういう工夫をぜひ全市的に取り組んでほしいと思います。わかりにくいのです。もったいないのです。

お話があったように、棚ではもう間に合わなくて、テーブルの上にチラシが並んでいるのです。その中から自分の興味があるものを受け取るのはなかなか難しいと思いますので、ぜひその辺の工夫をしてほしいと思います。

非常に細かいことで恐縮なのですが、中央図書館の自由記述のアンケートの中で「『未就学児の同伴はご遠慮ください』とありました。同伴されていた方が2組もいて……。このメール

を見て、小さな子を預けたり、参加をやめた方もいたかもしれません、ちゃんと注意して下さい。」ということがありました。私もいろいろな事業を今までやってきた中で、やはりどこで切るか、だめと言った人が来たときにどうするかというのは非常に難しいところなのです。周りから見ると、「うちは下の子を預けてきたのに」など、それが良いとなってしまっているのはどうなのだというような、小さなことが大きな不信感につながりかねないので、このあたりをきちんとやっていくというのも、気の毒かもしれないけれども、大事なことだと思います。

たまたま中央図書館で出てきたことだと思いますけれども、ほかの事業でも同じようなことが出てくると思いますので、このあたりのことはきちんとご留意いただければと思います。これに対する回答はしているのですか。

松尾中央図書館長 基本的に現場にいらしたときに、兄弟で来られたり、お子さんを連れていきますので、その場ではなかなかお断りするのは難しいです。次からこういうことでやっていますのでというお話はしていますけれども、その場で「今日はだめです」ということはしていない状況です。

報告事項(6) 夏休み期間中の科学教育推進事業について

和田委員長 生涯学習振興課科学教育推進担当課長、報告をお願いします。

西村科学教育推進担当課長 報告事項(6)「夏休み期間中の科学教育推進事業について」、報告します。

夏休み中の科学フェスタの一環であるサテライトイベントとして行っている科学教育推進事業について紹介します。最初に、千葉市未来の科学者育成プログラムに関してですが、夏休み中に12講座を実施しています。その中から8例を紹介します。

最初に、7月24日に、科学館で、医療系コースを対象に、中野教育委員が、「医療職を目指す人へー医療の現状と今後の展望ー」というテーマで講義をしました。医師、看護師、薬剤師、獣医などを目指す受講生が中心ですが、中学生にも非常にわかりやすいようにさまざまな医療職のこと、病院の診療科のことなどについても触れてもらいました。写真は講義後、受講生からの質問に直接答えている部分です。

続いて、7月31日に、千葉大学の理学部で行ったもので、研究室訪問と呼んでいます。これについては、指導課所管の理科教育センターの行事との共催のような形で進めているものです。最

初に、理学部内のサイエンスプロムナードという見学フロアを見学した後、理学部を作っている物理、化学、生物、地学、それから数学の5つの研究室を訪問して、研究内容に触れました。

写真の左側のものは、真ん中あたりに白っぽい、比較的小さな、エックス線を利用した小型の機器分析装置です。消しゴムを入れると、消しゴムがどんな成分でできているかということが全部わかってしまうような機械子どもたちはもう驚いていました。右側は、液体窒素などの保管容器の内部が、実際にどうなっているのか説明を受けている場面です。

続いて、8月4日の市立千葉高校SSHコースでの化学講座で、教育委員の皆さんも参加しました。今年度新設した市立千葉高校SSHコースは、中学2、3年生が対象で19人の受講生です。

その写真の中で、左側は分光光度計というもので、蛍光灯などの光のスペクトルを見ているところです。右側は、その日学習した内容に基づいてポスターを作製し、発表の準備をしているところです。このSSHコースについては、こういうポスター発表に力を入れているのが特徴かと思っています。

続いて、動物公園ですけれども、これはに、先ほどのSSHコースと同日の4日に、動物公園の休園日に入れてもらって、動物の飼育、研究について、また、講堂で種の保存などの説明を受けました。生育地の違いにより、動物の体の特徴の違いなどを観察するという内容でした。

次に、これは8月5日に、千葉大学の中にフロンティア医工学センターで行われた講座です。どちらかということ工学部の施設に近いのですけれども、単独の施設になっています。ちょうど医学と工学の接点に当たる研究領域なのですけれども、そうした内容に触れることができました。

大変充実した内容で、左側の写真は解剖中のようなものが見えると思うのですけれども、実は電気メスを直接さわらせていただきました。鶏肉を切る体験をしたり、右側の写真は、MRIの画像解析について、かばんのようなものを実際に機械の中に置いて、そうするとどのように見えるのかというものです。それから超音波診断、遠隔操作を利用した手術の方法、そういったものも、具体的な操作体験を通して最新の医療機器に直接触れることができる機会になりました。

続いて、18日に千葉市の環境保健研究所で行われたものです。

この研究所では、200キロの重さがある鉛製の扉の中に物を置いて、いろいろな食品の放射線量を測定するそうです。そういったことを直接見たり、千葉市内の河川の水質検査を受講生が体験しました。近年、市内の河川が比較的きれいになっているということも、子どもたちにとっては驚きだったようです。

続いて、総合、医療系コースとして、21日に放射線医学研究所に行きました。放射線の基本的な性質や医学利用について講義を受けた後、放医研の中の施設見学をしたのですが、白衣も貸していただきまして、いろいろな装置等も見せていただきました。放射線照射のための大型の加速器といったもの、それから放射線の治療施設についても説明を受けました。右側の写真は、実際に放射線が飛び出る様子、飛散する様子を目で見ることができる、霧箱と呼んでいますけれども、それを自作して、確認しているところです。

続いて、これは27日に、篠原委員も参加しましたが、東京ガス千葉支社の幕張地域冷暖房センターへ見学に行きました。幕張地区のビルの冷暖房がこうした施設によって管理されているということ自体も、子どもにとっては驚きだったようです。それから、非常に大きなボイラー、パイプのようなものがいろいろな幕張のホテルやさまざまなビル等につながって冷暖房が供給していることを、直に見ることができました。

次は、科学部活性化事業として、夏休み行ったものです。科学部が市内中学校15校に設置されていますけれども、部員の数としては300人を超える人数になっています。その科学部の活性化のために、研究セミナー、それからこの後行われるサイエンスクラブアSEMBリー、指導者の研修会などを計画しているものです。

写真ですけれども、これは第3回として蘇我中学校で行った、科学部研究セミナーの様子です。蘇我中学校での様子です。20日ということでお盆の直後だったのですけれども、4校21人の科学部員が集まり、顧問の先生も来てもらいました。

今回は、科学館の大高館長に直接円盤が回転したジャイロについて講義をしてもらい、その後、科学館のボランティアの方に5人入っていただいて、ジャイロに関するさまざまな実験をしたり、楽しく回すことができました。どうして自転車が倒れないのかや、ヘリコプターの仕組みなども触れることができました。それから、

今回、館長キャラバンということで進めたわけですが、科学館のボランティアの方の研修または育成の機会というような意味合いもあると思っています。

最後になりますが、8月23日、プラネタリウムの利用客が100万人を達成しましたので、記念式典を催しました。7年間で、年間に14、15万人にご利用いただいていることになるかと思っています。今回、中央区新宿にお住まいのご家族の方に達成証、それから記念に花束等を贈らせていただきました。ドームの中に入れていただいて、お祝いをしていただいた方にも、「かそりーぬ」のうちわなど記念品をお渡ししました。

報告第1号 県費負担教職員の人事について

和田委員長 教職員課長、報告をお願いします。

伊藤教職員課長 報告第1号「県費負担教職員の人事について」、千葉県教育委員会組織規則第9条第1項の規定に基づき、教育長の臨時代理により処理しましたので、同条第2項の規定に基づき報告します。

千葉市立小中台中学校の福田寛校長が平成26年9月1日にご逝去されましたので、同年9月16日付で青少年サポートセンター担当所長補佐、桐原公夫を校長として採用しました。

議案第36号 平成26年度千葉市教育功労者表彰について

委員長 総務課長、説明をお願いします。

総務課長 議案第36号「平成26年度千葉市教育功労者表彰について」、説明します。平成26年度千葉市教育功労者として、個人及び団体を表彰することについて、千葉県教育委員会組織規則第8条第7号の規定に基づき、議決を求めるものです。

表彰候補者については、千葉市教育功労者表彰規則及び千葉市教育功労者表彰の表彰基準細則に則り、関係所管より推薦された方々及び団体について、教育功労者表彰審査委員会において審査、決定されています。

今年度表彰者の内訳をご説明します。学校保健関係17人、うち学校医9人、学校歯科医5人、学校薬剤師3人となっています。

生涯学習関係3人、うちスポーツ関係2人、文化芸術関係1人です。

学校教育関係45人、うち校長43人、教諭2人。以上の個人65人と、生涯学習関係1団体及び学校7校、小学校5校、中学校2校でございますが、合計8団体です。

各表彰者の推薦理由等については、参考資料をご覧ください。

なお、表彰式は11月21日（金）の午前10時30分から、オークラ千葉ホテルで開催の予定でございますので、ご出席のほどよろしく申し上げます。表彰式の詳細については、後日また改めてお知らせします。

9 その他

- (1) 篠原委員から退任の挨拶があった。
- (2) 次回第10回定例会は、平成26年10月15日（水）午後2時より開催することと決定した。

10 閉会

和田委員長より閉会を宣言